

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 1		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 未来		
所在地	倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和5年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとり尊重した暮らしが出来るよう、生活歴の把握、利用者様、家族様の意向を聞きながら、入居者様と生活を共にしている事を意識しゆっくりと関わり、居心地の良い安心・安全な生活が送れるよう努めている。また入居者様が少しでも笑顔で過ごせるよう、利用者様本位で介護ができる場所を目指し実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・管理者は職員の意見や提案に対し柔軟に対応し、反映できるよう努めている。就業規則を見直す機会を設け、職員の提案や意見を反映し、夜勤手当ての改正につながった。
 ・職員は利用者の尊厳を大切に、一人ひとりの人格を尊重した寄り添った支援ができるよう努めている。
 ・看護職員を配置し、医療的ケアや医療機関との連携の核となっている。看取りの際は、看護職員を中心とし、職員・家族・医療機関と連携し、利用者の状態に寄り添った支援をチームで取り組んでいる。
 ・浴室に浴槽台やバスボードを準備しており、可能な限り利用者が湯舟につかることができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171500394		
法人名	社会福祉法人 麗明会		
事業所名	グループホーム ばんだの里 2		
所在地	鳥取県西伯郡大山町安原1118-1		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和5年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かで裏には畑があり、野菜や果物が収穫でき、アットホームな環境の中で過ごして頂いている。また一人ひとりの願いや思いを聞き寄り添いながら、笑顔で穏やかに過ごして頂けるよう、柔軟な対応を心がけている。また保護猫がおり、ご利用者が声をかけたり、撫でたりなど、ご利用者・職員ともに癒しの存在となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝のミーティングで介護理念の唱和、毎月1日は基本理念の唱和を行い、理念に沿って介護するよう努めている。	理念を唱和し共有を図るとともに、グループホームの目標を設定し、毎年振り返りを行い実践につなげている。理念のひとつに地域交流を掲げているが、コロナ禍により困難である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流は自粛しているが、消防訓練時に自治会長や家族の代表の方に見学して頂いた。以前は地域の運動会、文化祭などに参加したり、地域の獅子舞に来て頂いていた。	コロナ禍により、日常的な地域とのつきあいは難しい状況が続いている。感染対策を施しつつ、できることから実施していけるよう自治会長と相談し検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長に参加して頂いたり、広報誌で認知症に対する理解や支援の方法をお伝えしている。入居者のご家族から相談を受けた時は、認知症の理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の暮らしの様子や、事業所の取り組み、ひやり・ハットなどを報告している。会議の中で頂いた質問や意見、助言などを参考にして、支援の改善、向上に努めている。	地域の感染状況に応じて開催し、家族代表や町担当者など限られたメンバーで行っている。開催できない場合や、参加していないメンバーには書面にて報告している。	開催できない場合、書面での報告だけでなく質問や意見、要望を返信により受けられるような仕組みを検討してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で利用者様の状況や各事業所の取組み、困難事例等を報告し意見や助言等を頂いている。また転倒などで病院を受診した場合は、速やかに担当者に報告している。	困難事例や感染対策などについて、町担当者と相談している。また運営推進会議に出席してもらい、取り組みの状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に現状の再確認や勉強会を行っている。最近まで転落防止のためベッド柵を使用していた利用者があったが、毎月改善に向けて検討し、現在は使用を終了している。	2ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、ベッド柵の使用など利用者一人ひとりの状態を踏まえ、見直し改善に向け取り組んでいる。	センサーマットの使用が常態化することのないよう、定期的に見直し検討していくことを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンスで勉強会をし意見交換をしながら、入居者様の身体面や精神面など注意深く見守りし、全員で防止に取り組んでいる。また職員同士声をかけ合いながらコミュニケーションをとる様努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている入居者があり、必要性について学ぶ機会となっており、身近な制度として受け止めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っているが、利用者やご家族の不安や疑問点に更に十分な説明ができるよう、今後はユニットのリーダー等の参加も検討して、理解・納得が得られるようにしていく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族・利用者・地域の代表の方に参加して頂き、意見等をお聞きし、運営に反映できるよう努めている。	運営推進会議にて利用者や家族代表から意見や要望を聞き、運営に反映させている。コロナ禍により、家族がホーム内の様子を直接見る機会がなく、お便りでお知らせしている。	家族からの意見や要望を、送付しているお便りから返信してもらうような仕組みを検討してはどうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月のカンファレンス、リーダー会等で意見交換しながら、意見や提案を反映出来るように努めている。個別面談は本年度は実施できていない。	★管理者は職員の意見や提案に対し柔軟に対応し、反映できるよう努めている。就業規則を見直す機会を設け、職員の提案や意見を反映し、夜勤手当の改正につながった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、研修会参加、個々の努力、勤務状況等考慮し、各種手当や資格取得のバックアップ等、やりがいを持って働けるように努めている。子育て中の職員には、柔軟な勤務時間の設定など考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にできる限りの参加を実施している。ほぼリモート研修となっており、外部から講師を招いての研修は行えていない。エルダー制度を取り入れお互いの資質向上に向けて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リモート研修会などで同業者との交流が多少なりとも行っているが、コロナ禍で相互訪問などの活動は行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面会し状況を把握し、本人やご家族の話聞いた上でケアプランを作成し、職員で共有し安心して頂くよう努めている。また入居後も本人の思いを傾聴し、ご本人理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅や利用中の施設に訪問し、身体や生活面など様々な方面からの問題点やご要望をお聞きし、意向に沿えるようにしている。また分からない点などは率直に質問させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンスを開催し、まずは優先すべきサービスを見つけ対応している。また状況の変化に合わせて、必要なサービスを見出し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で、洗濯物たたみや掃除のお手伝いをしてもらい、やりがいを持って生活して頂いている。また人生の先輩として生活の知恵を伝授して頂いたり、職員と一緒におやつ作りを行い楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会が難しい中、必要に応じ電話などで本人の様子をお伝えし、利用者と家族の橋渡しとなるよう努めている。月に一度、写真付きのお便りをお送りして、ご家族に喜んで頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、面会は窓越しで行って頂いている。ターミナルの方には面会制限を設けず、柔軟に対応している。	感染予防のため直接の面会は制限しており、関係継続の支援は困難な状況にある。終末期の利用者の家族には抗原検査をしてもらうことで面会を可能とした。希望があればタブレット端末を利用したりリモート面会も可能である。	面会を画一的に制限するのではなく、感染状況に応じ、さらに柔軟に対応することを望む。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を把握した上で、座席の配慮をしたり職員が橋渡しをする事で、利用者同士が楽しく会話できる場所を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、相談等あればその都度お話を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人やご家族の思いや意向をお聞きし、困難な場合は表情などから思いを汲み取る様努めている。	日頃の関りの中で思いや意向を汲み取るとともに、家族からも聞き取り、希望の把握に努め本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面会時などで生活歴やサービスの利用状況などをお聞きし、これまでの暮らし方を把握するようにしている。また入居後もご家族や関係機関などに連絡を取り、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々一人ひとりの体調や生活リズムを把握し、状態に合わせてその人らしい生活と活動ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞きながら、毎朝のミーティングやカンファレンス時に意見交換を行い、主治医に助言を頂きながら、現状に合った介護計画を作成するよう努めている。	本人、家族や主治医から聞き取りを行い、毎月のグループカンファレンスで話し合った意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別日誌や連絡ノートに記録し、職員間で確認しながら統一したケアが提供できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と連携を取り、本人の望みや心配事、通院など柔軟に対応するよう努めている。兼ねてからの希望であった、お墓参りも実現できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はボランティアの方に来て頂き演芸を楽しんで頂いたりできていたが、コロナ禍でほとんどできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医に往診に来て頂いている。緊急時には連携を取り指示を頂き、必要時にご家族に往診に同席して頂くこともある。病状によっては協力医以外の受診も支援している。	かかりつけ医による月1回の往診と、歯科医の必要時の往診により、適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時にも柔軟に対応してもらえる関係性を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関りの中で気づいた変化などを、すぐに看護職へ報告し情報交換しながら、利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合医療機関にできるだけ早く情報提供をしている。また早期に退院できるように、病院関係者、家族との連携をとりながら支援している。病院関係者とは相談などを通じ良好な関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の要望をお聞きし、事業所として出来る事を説明しながら方針を決めているが、その都度ご家族と話し合い、同意を得ながら支援している。	利用者・家族に重度化や終末期に向けた意向を都度確認している。★看取りの際は、看護職員を中心とし、職員・家族・医療機関と連携し、利用者の状態に寄り添った支援をチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生法の講習会は実施できていない。定期的に看護師カンファレンスを行い、併設事業所の看護師とも利用者の情報交換をし、連携が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災訓練を年2回、夜間想定と日中想定で開催しており、地域の方にも見学をして頂いている。	備蓄や停電時の非常電源などの災害対策をしている。年に2回、避難訓練を開催し、避難方法や設備について改善点の検討をしている。	より多くの地域住民に協力してもらえよう、防災訓練について検討してみようか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しっかりと声かけをし確認しながら、一人ひとりの人格を尊重し対応している。日々利用者本位で生活できるよう心がけている。	★職員は利用者の尊厳を大切にし、一人ひとりの人格を尊重した寄り添った支援ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、本人の思いや願いを話して頂けるよう環境作りに努め、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員側の都合という事はあるも、利用者様への説明に努め、すべて都合だけに終わらせず、理解して頂ける形になるよう心がけ、無理はしない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど一緒に選んで頂いたり、毎朝の整容や必要時清潔な身だしなみを整える事で、気持ちも前向きで過ごして頂けるよう心がけている。希望により月1回の訪問整容サービスを利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしく安全に食事が楽しみとなるよう、一人ひとりの状態に配慮しながら提供している。出来る方にはテーブル拭きや下膳などして頂いている。	一人ひとりの好みや要望を聞き取り、献立に反映している。月1回、お誕生日メニューを提供し、食事がより楽しみなものになるよう工夫している。	施設内の未使用場所を、時には食事場所として有効活用し、雰囲気を変えた食事の提供をしてみてもどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のその時々々の体調を考慮し、無理のない様食事を摂って頂いている。毎日の食事量・水分量をチェックし、少ない時は好みの物やゼリー状にして提供し、食事・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに声をかけ、できるところはして頂き出来ていない部分は介助して、口腔内の清潔を保つよう努めている。強い拒否やむせがある時は無理せず、できるタイミングでして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり介護記録などを確認しながら、個々に応じた声かけや、トイレへの案内を行っている。	一人ひとりの排泄パターンに合わせ、排泄の自立に向けた支援をしている。夜間はポータブルトイレやおむつを併用し、睡眠を妨げないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、水分摂取の声かけ、おやつ工夫など、一人ひとりのチェック表を確認しながら、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の気分や体調を考慮し変更も行っている。入浴を楽しんで頂けるよう、声かけに工夫したりタイミングに配慮している。	午前中の時間帯で、週2回は入浴を楽しんでもらえるよう支援している。★浴槽やバスボードを準備しており、可能な限り湯舟につかることができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調やその日の気分に合わせて午睡の声かけをしたり、安心して眠れるよう部屋の環境作りに配慮している。また一日の生活リズムが崩れないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容について把握するよう努めており、薬の変更があった場合は、看護職と連携をとりながら、状態に変化がないか確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望や力にあわせ、洗濯物たたみや草取り、果物の皮むきなどをして頂いている。会話の中から聞き取り、好みの嗜好品やレクリエーションなどを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は難しくなっているが、季節の花見や紅葉狩りなどのドライブに出かけて頂いた。	コロナ禍により日常的な外出支援は難しいが、車内での花見や紅葉狩りに出かけ、季節を感じてもらおうと努めている。希望により、墓参りと実家訪問をした利用者もあった。	その日の希望にそって、さらに戸外へ出かけられる支援に努めて欲しい。施設の未使用場所を活用し、外出気分を創出できるよう工夫してみたいかどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理するのは難しいため、ご家族より預かり事業所で管理させて頂いている。必要な物がある時は、ご家族と連絡を取り対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様やご姉妹への電話の取次ぎ等を支援し、落ち着いてゆっくり話せるよう支援している。手紙のやり取りの支援は今のところできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、食堂の壁に、利用者の制作した飾りや塗り絵を掲示し、利用者同士で評価したり談笑して頂いている。花壇には季節の草花が鑑賞できるようにしている。	ホームには大きな窓や天窓があり、外の景色から季節を感じることができる。浴室も外の光が差し込み明るい。居間や廊下には、絵などの作品が掲示してある。温度湿度に配慮し、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方とお話ができるよう座席に配慮している。いくつかソファを置き、一人ひとり自由に過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談しながら、使い慣れた家具や椅子を置き、また家族の写真を置いたりして、居心地の良い居室となるよう支援している。	居室にはベッドや使い慣れた家具、椅子、鉢植えなどが置いてあり、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる方には洗濯物をたたんでタンスにしまったり、食後に下膳して頂いている。動線を考慮し障害となる物を置かない様に気を付けている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍のため、面会は窓越しで行って頂いており、ターミナルの方には検査をして頂き、直接面会して頂くなどの対応を行っているが、この状況が長く続いており、さらに柔軟な対応が必要となっている。	感染状況に応じ、さらに柔軟な対応を行い、ご利用者・ご家族に安心して頂く。	・感染状況が落ち着いてくれば、短時間の面会をして頂く。 ・希望される家族には検査をして頂き、面会をして頂く。 ・他の感染症の状況も含め、状況に応じて面会なども柔軟に対応していく。	12ヶ月
2	40	食事が楽しみとなるよう、個々の状況に配慮しながら提供しているが、以前行っていた外食などができない状況が続いている。	同じメニューでも、たまには目先を変えてみたり、食事場所を変えて違う雰囲気を楽しんで頂く。	・たまにはお弁当に詰めて目先を変えて提供する。 ・施設内の空いている場所を食事場所として活用し、違う雰囲気を楽しんで頂く。	12ヶ月
3	49	日常的な外出は難しくなっており、季節の花見や紅葉狩りなどのドライブに出かける程度となっている。	少しの時間でも戸外へ出て季節を感じて頂ける様務める。また空いている空間を利用し、外出気分を味わっていただく。	・時間を作って外出し、季節を感じて頂く。 ・施設の空いている空間を利用し、飾りつけなどを工夫して、外出気分を味わって頂く。 ・昨年はできなかった夏祭りを実施する。 ・項目40と連動しながら実施する。	12か月
4	10	コロナ禍により家族には、利用者の様子やホーム内での生活状況を、毎月のお便りと写真でお知らせしているが、家族からの運営に関する意見や提案を聴く機会はありません。	運営に関する意見や提案を拾いやすくする。	・数か月に1回、毎月のお便りにアンケート用紙を同封し、家族からの意見や提案、要望を書いて頂くようお願いする。また気軽にお電話でも頂ける様お伝えする。	12か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。